

テーマセッション1

家族の合意形成を支える援助への研究アプローチ

長戸和子・瓜生浩子（高知女子大学看護学部）

1.はじめに

「お任せ医療」から「自己決定医療」へと医療のパラダイムが変換され、自ら選択・決定することが重要であると認識されるようになってきた。病者を抱える家族は、家族の一員の健康問題によってさまざまな影響を受け、衝撃や不安の中で今後の治療や療養生活などについての決断を迫られることになる。さらに、在院日数の短縮化が進められ、病者の家族は、家族員の病気という体験を十分に整理し受けとめられないままに、あるいは、病者を含めた家族の意思を十分に吟味できないままにいろいろなことがらを決定するよう求められることとなろう。しかし、このような家族に対して、家族が自分たちのおかれている状況を吟味し、自らの意思で決定に向かえるようにするための医療従事者からの援助は、十分であるとは言いがたく、看護者にとって重要な課題であるといえよう。

このテーマ・セッションでは、このような課題を受けて私たちが取り組んだ研究の一部を紹介し、「家族の合意形成を支える援助への研究アプローチ」について、研究の問いと方法論の整合性、今後の課題などについて参加者の皆様とディスカッションしながら探求していきたいと考えている。

2.家族の合意形成を支える援助への研究アプローチ

本研究は、家族の合意形成を支える看護技術を抽出することと、抽出された看護技術をもとに「家族の合意形成を支えるケアガイドライン」を作成し、評価することを目標とした。

1) 家族の合意形成とは

「家族の合意形成」とは、病気の家族員を抱えながら家族生活を営む中で、家族としてどのようにしていくのか、ひとつの方向性を見出し意思決定をしていくことである。看護者は、家族が十分に話し合い、さまざまな意見の中から接点を見出し、自らの力で意思決定することができるように支援していく必要がある。

本研究では、「家族」を病者を含めた家族集団としてとらえている。また、「合意」とは、日常的なできごとや療養生活の過ごし方に関して、家族内で意見の相違を含みながらも、ひとつの状況の中で、あるいは一時的なものとして家族がひとつの意見にまとまることとしてとらえている。

2) 研究方法論

本研究は、以下の7段階のプロセスを経てデータ収集・データ分析を行った。データ収集・分析を繰り返し、分析結果を洗練化しながら、臨床で用いることのできるガイドラインを作成していった。

第1段階：ロールプレイにより技術を抽出するプロセス

第2段階：インタビューを行ってデータ収集し、得られたデータを分析し技術を抽出するとともに、第1段階の結果もふまえて洗練化するプロセス

第3段階：第2段階で得られた結果についてエキスパート看護者にコメントをもらい、結果を洗練化するプロセス

- 第4段階：インタビューを行ってデータ収集し、得られたデータを分析し技術を抽出するとともに、第3段階の結果もふまえて結果を洗練化するプロセス
- 第5段階：ガイドラインを作成するプロセス
- 第6段階：ガイドラインについて検討するフォーカス・グループを開催し、得られたデータを分析し、その結果からガイドラインを洗練化するプロセス
- 第7段階：ガイドラインを実践の中で活用し、実践での活用という視点からガイドラインの評価を行うプロセス

3) 研究結果

本研究の結果、家族の合意形成を支える技術は、看護者の姿勢やアセスメントといった『家族の合意形成を支える技術の基盤となるもの』を土台に、『家族の合意形成を支える技術の中核をなす技術群』（家族の意思決定を支える技術群・家族の力を保持する技術群）と『状況に応じて組み合わせて用いる技術群』（家族の現実認識を深める技術群・家族の相互作用を高める技術群・家族のパワーを扱う技術群・家族の感情を扱う技術群）の三層から構成されるものであることが明らかになった（図1）。

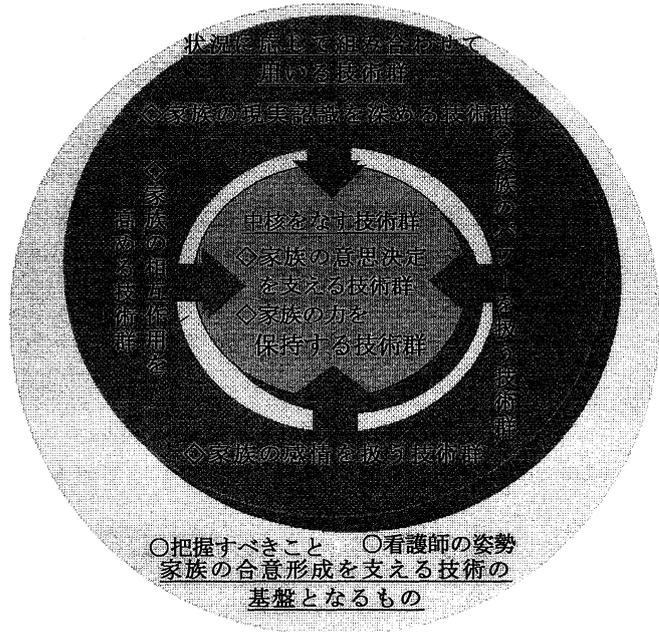


図1. 家族の合意形成を支える技術

そして、この結果をもとに作成した「家族の合意形成を支えるケアガイドライン」についての実践での活用という視点からの評価では、多くの看護者がそれぞれの技術を家族への支援に活用していた。しかし、家族の絆や病気の家族員の状況などを多角的にとらえようと努力し、これらの技術を用いて合意形成への援助を展開してみたが、決断・合意は平行線をたどり、他力本願から自力本願へと向ける技術は難しい、との感想を述べた看護者もあり、病者を抱える家族にとって、パターンリズムから脱却し、自ら決定していくことは難しいことであることも伺えた。だからこそ、看護者には専門職としてこのような家族が自分たちにとって最もよい方向を見出していけるよう支えるという重要な役割が求められていると考えられた。

3.今後の課題

本研究では、家族の合意形成を支えるための看護技術を抽出し、実践で活用できるガイドラインの作成を目標とした。在院期間の短縮化が進む中で、家族が合意できるポイントを可能な限り早期に発見し、そこに至るプロセスを意図的に進めていくには、熟練した技能が求められる。今後の研究課題としては、家族にとっての合意点をいかに見出していか、そのためのアセスメントの視点を明らかにすることや、合意形成へのプロセスを進めていく技術を高めるための方法を明らかにすることなどがあげられよう。